

蘇陽町の文化財

第三集 (木像仏関係)



蘇陽町教育委員会
蘇陽町文化財保護委員会

序

文化財資料第3集を刊行しました。このたびは、先きに発行しました。第1集および第2集をもとにして、町内に散在している木像仏の調査結果を紹介し、併せて、先祖の方々が残された「敬神崇祖」の心を偲んでいただくことにしました。

町内には約八十数ヶ所に社やお堂が在り、そこには数多くの神仏が祀られています。これらは幾星霜もの長い歳月を得て今日に至っております。

このような、貴重な尊い、文化遺産を守り、継承し、後世に伝えてゆくことは、今のわたしたちに与えられた務めであると思います。

この編さんにあたって、特に、文化財保護委員の方々を始め御協力いただいた関係各位の後苦勞に対しまして、深甚の敬意と謝意を表し発刊のことばといたします。

なお、町民各位の御参考になれば誠に幸いと思います。

蘇陽町教育長 後藤 貴

は し が き

蘇陽町には祖先の方々が残された、数々の木像仏が社やお堂に祠られてあります。それらは地域の人々の心の寄りどころとして、また、憩いの場として、現在にいたっております。

思えば当時の人々の生活の息吹きが、長い間の風雪に堪えながら、これらの木像仏を通して熱く伝って参ります。

それは地蔵さんであり、お大師さんであり、牛馬の守り神である馬頭観音などなどであります。

このような、すばらしい木像仏を文化財として大切に保存し、お堂や社にまつわる伝承行事等を受け継ぎ、これを後世に伝えることは、現在生きている私共の責務であると思います。

以上のようなことから、町内の木像仏について刻明に調査したつもりではありますが、何分にも広範囲な地域であり、加えて勉強不足のこともあり、誤記や調査もれもあるかと思いますが悪からずお許し下さるようお願い申し上げます。

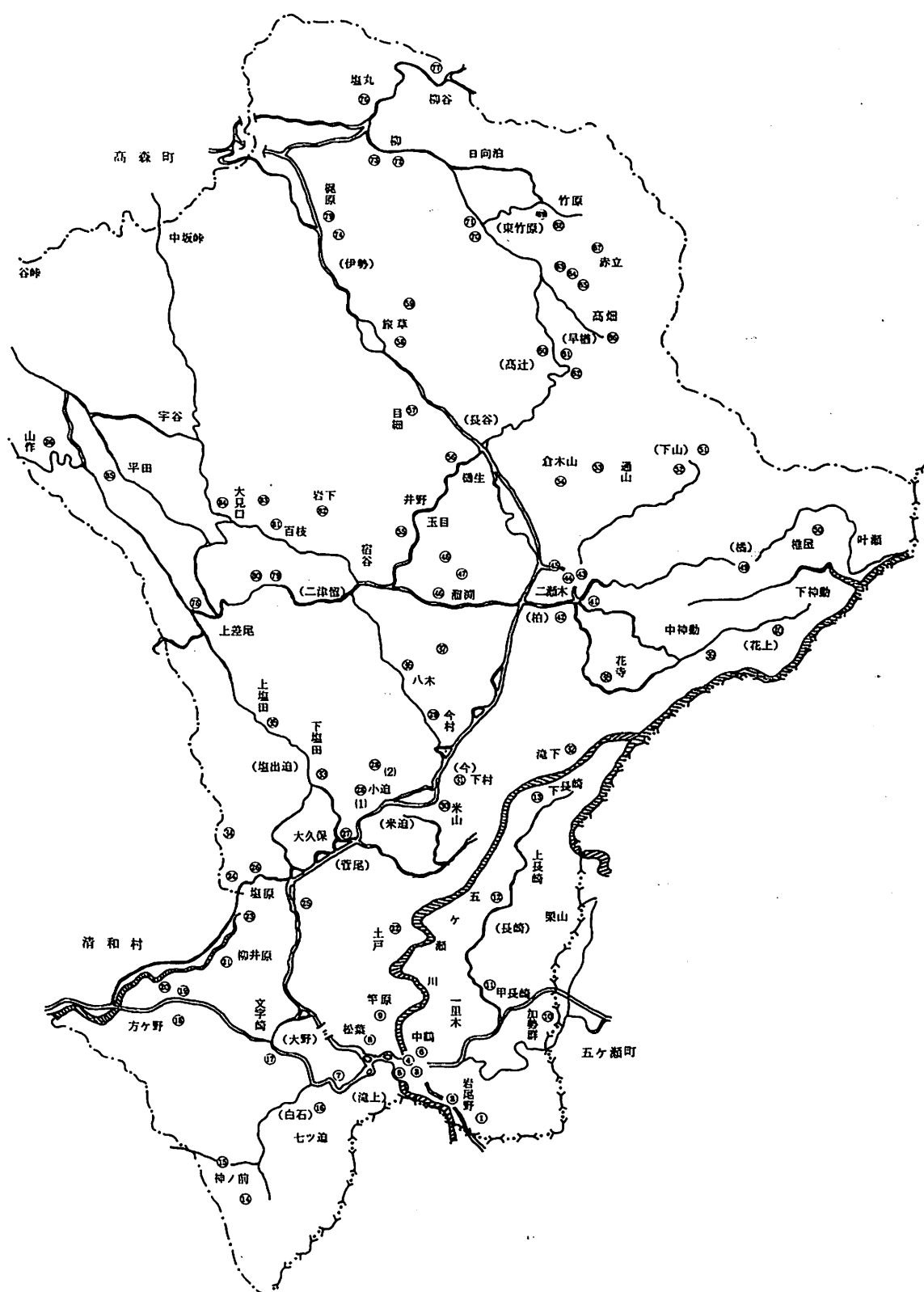
蘇陽町文化財保護委員

長谷野官蔵、大内田忠秋

後藤 松寿 佐藤 幸孝

原 史章

位置図



蘇陽町内木像仏一覧

番号	堂 及 び 社 名	所 在 地	番号	堂 及 び 社 名	所 在 地
1	大 日 堂	馬見原 岩尾野	2 7	如 来 堂	大久保 境ノ谷
2	天 満 宮	〃 岩尾野	28-1	観 音 堂	米 迫 赤 迫
3	観 音 堂	〃 古 町	28-2	地 蔵 堂	〃 米 迫
4	恵 比 須 堂	〃 古 町	2 9	慈 限 寺	今 村 菖蒲迫
5	地 蔵 堂	〃 新町上	30-1	天満宮(公民館)	米山公民館後山
6	天 満 宮	〃 田 町	30-2	大師堂(〃)	〃 古畑
7	阿 弥 陀 如 来 堂	滝 上 須 刈	3 1	不 動 尊 堂	今 下 村
8	天 神 堂	〃 松 葉	3 2	観 音 堂	〃 滝 下
9	薬 師 如 来 堂	〃 竿 渡	3 3	観 音 堂	下塩出 上川鶴
1 0	観 音 堂	長 崎 加勢群	3 4	天 満 宮	上塩出 牧 野
1 1	天 神 堂	〃 甲長崎	3 5	如 来 堂	〃 上 原
1 2	薬 師 堂	〃 上長崎	3 6	観 音 堂	八 木 神の木
13-1	三 皇 神 社	〃 下長崎	3 7	天満宮・観音堂	〃 八 矢
13-2	薬 師 堂	〃 下長崎	3 8	菅 原 神 社	花 上 花 寺
1 4	観 音 堂	神之前 中 鶴	3 9	地 蔵 堂	〃 中神道
1 5	山 神 堂	〃 上 尾	4 0	釈 迦 堂	〃 下神道
1 6	天 満 宮	白 石 七ッ迫	4 1	八 幡 宮	柏 大野原
1 7	観 音 堂	大 野 瀬 越	4 2	観 音 堂	〃 戈 原
1 8	菅 原 神 社	方ヶ野 北小田	4 3	地 蔵 菩 薩 堂	二瀬本 丸尾野
1 9	火 伏 地 蔵 堂	柳井原 伊義名	4 4	八 幡 宮	〃 〃
2 0	天 神 堂	同 上	4 5	熊 野 座 神 社	〃 〃
2 1	安 楽 寺	柳井原 村之前	4 6	天 満 宮	柏 溜 渕
2 2	火 伏 地 蔵 堂	滝 上 土 戸	4 7	観 音 堂	〃 〃
2 3	天 満 宮	塩 原 黒 原	4 8	薬 師 堂	〃 〃
2 4	地 蔵 堂	〃 斗 塩	4 9	釈 迦 堂	橘 椎 屋
2 5	天 満 宮	菅 尾 川治谷	5 0	桃 山 阿 蘇 神 社	〃 桃 山
2 6	長 寿 寺	〃 川治谷	5 1	不 動 堂	下 山 八 又

番号	堂 及 び 社 名	所 在 地	番号	堂 及 び 社 名	所 在 地
5 2	薬 師 堂	下 山 八 又	7 9	天 満 宮	二津留 二津留
5 3	大 師 堂	長 谷 倉木山	8 0	薬 師 堂	” ”
5 4	清 正 公	” ”	8 1	観 音 堂	上差尾 百 枝
5 5	釈 迦 堂	玉 目 蔵ヶ迫	8 2	天 満 宮	大見口 岩 下
5 6	如 来 堂	長 谷 稲 生	8 3	秋 葉 神 社	” 朝
5 7	天 満 宮	” 目 細	8 4	観 音 堂	” 長 藪
5 8	天 満 宮	伊 勢 旅 草	8 5	薬 師 堂	上差尾 平 田
5 9	薬 師 堂	” ”	8 6	釈 迦 堂	” 山 作
6 0	如 来 堂	高 辻 早 栖			
6 1	山 神 社	” 前 鶴			
6 2	薬 師 堂	” 前			
6 3	大 師 堂	高 畑 水 迫			
6 4	薬 師 堂	” 東 原			
6 5	大 師 堂	” ”			
6 6	八大龍王神社	” ”			
6 7	赤 谷 天 満 宮	” 赤 立			
6 8	天 満 宮	東竹原 竹 原			
6 9	御 大 師 堂	” ”			
7 0	天 満 宮	” 野 原			
7 1	御 大 師 堂	” ”			
7 2	天 神 社	柳 下大迫			
7 3	観 音 堂	” 観 音			
7 4	如 来 堂	伊 勢 梶 原			
7 5	天 満 宮	” ”			
7 6	観 音 堂	柳 西猿丸			
7 7	観 音 堂	” 柳 谷			
7 8	薬 師 堂	上差尾 堂 本			

目 次

1. 仏像の起り

2. 仏像の種類と特徴

- (1) 仏部の尊像
- (2) 菩薩部の尊像
- (3) 天部の尊像
- (4) 明王部の尊像
- (5) その他

(1)お大師堂

(2)天満宮

3. 町内木像仏一覧

大日堂（馬見原・岩尾野）	1
大師堂（ 〃 ・ 〃 ）	2
観音堂（馬見原・古町）	3
恵比須堂（ 〃 ・ 古町）	4
地藏堂（ 〃 ・ 新町上）	5
天満宮（ 〃 ・ 田町）	6
阿弥陀如来堂（滝上・須刈）	7
天満宮（ 〃 ・ 松葉）	8
薬師如来堂（ 〃 ・ 竿渡）	9
観音堂（長崎・加勢群）	10
天満宮（ 〃 ・ 甲長崎）	11
薬師堂（ 〃 ・ 上長崎）	12
三皇神社（ 〃 ・ 下長崎）	13-1
薬師堂（ 〃 ・ 〃 ）	13-2
観音堂（神之前・中鶴）	14
山神社（ 〃 ・ 七尾）	15
天満宮（白石・セツ迫）	16

観音堂（大野・瀬越）	17
菅原神社（方ヶ野・北小野）	18
火伏地藏堂（柳井原・伊義名）	19
天満宮（　〃　・　〃　）	20
安楽寺（　〃　・村之前）	21
火伏地藏堂（滝上・土戸）	22
天満宮（塩原・黒原）	23
地藏堂（　〃　・斗塩）	24
天満宮（菅尾・川治谷）	25
長寿寺（　〃　・　〃　）	26
如来堂（大久保・境ノ谷）	27
観音堂（米迫・赤迫）	28-1
地藏堂（　〃　・米迫）	28-2
慈眼寺（今村・菖蒲迫）	29
天満宮（米山・後山）…（公民館併祀）	30-1
大師堂（　〃　・古畑）…（公民館併祀）	30-2
不動尊堂（今・下村）	31
観音堂（　〃　・滝下）	32
観音堂（下塩出・上川鶴）	33
天満宮（上塩出・牧野）	34
如来堂（　〃　・上原）	35
観音堂（八木・神之木）	36
天満宮・観音堂（八木・八矢）	37
菅原神社（花上・花寺）	38
地藏堂（　〃　・中神働）	39
釈迦堂（　〃　・下神働）	40
八幡宮（柏・大野原）	41
観音堂（　〃　・戈原）	42
地藏堂菩薩堂（二瀬本・坂之上）	43
八幡宮（　〃　・　〃　）	44
熊野座神社（　〃　・　〃　）	45

天満宮（柏・留渕）	46
観音堂（〃・〃）	47
薬師堂（〃・〃）	48
积迦堂（橘・椎屋）	49
阿蘇神社（〃・栴山）	50
不動堂（下山・八又）	51
薬師堂（〃・〃）	52
大師堂（長谷・倉木山）	53
清正公（〃・〃）	54
积迦堂（玉目・蔵ヶ迫）	55
如来堂（長谷・稻生）	56
天満宮（〃・目細）	57
天満宮（伊勢・旅草）	58
薬師堂（〃・〃）	59
如来堂（高辻・前）	60
山神社（〃・前鶴）	61
薬師堂（高辻・前）	62
大師堂（高畑・水迫）	63
薬師堂（〃・東原）	64
大師堂（〃・〃）	65
八大王龍王神宮（〃・〃）	66
天満宮（〃・赤立）	67
天満宮（東竹原・竹原）	68
大師堂（〃・〃）	69
天満宮（〃・野原）	70
大師堂（〃・〃）	71
天満宮（柳・下大迫）	72
観音堂（〃・観音）	73
如来堂（伊勢・梶原）	74
天満宮（〃・〃）	75

観音堂（柳・西猿丸）	76
観音堂（〃・柳谷）	77
薬師堂（上差尾・堂本）	78
天満宮（二津留・二津留）	79
薬師堂（ 〃 ・ 〃 ）	80
観音堂（上差尾・百枝）	81
天満宮（大見口・岩下）	82
秋葉神社（ 〃 ・朝藪）	83
観音堂（ 〃 ・長藪）	84
薬師堂（上差尾・平田）	85
釈迦堂（ 〃 ・山作）	86

1. 仏像の起り

釈尊は紀元前六世紀にインド・ヒマラヤ山脈の南麓、カピラ城の王子として生まれましたが、生まれてまもなく母と別れるという悲しみに遭遇しています。

釈尊は成長するにしたがって、人間は皆共通した悩み（七難八苦）をもっていることに気づきました。そこでどうしたらこのような悩みをもっている人々を救えるかと真剣に考へ続け、35才で悟りを開き80歳で亡くなるまでの45年の間、どうすればその苦しみから逃れることができるか、というようなことを説きました。

今日、私たちの周りには、数多くの仏の姿が見られます。

これらは釈尊が亡くなって600年後、釈尊の説法の中に出てくる多くの御仏の像をつくろうということになり、釈尊の弟子達がお経に説かれている内容や教え（教理）を知る手掛りとし、釈尊の姿をモデルとしてとり入れたものです。

2. 仏像の種類と特徴

仏像は大きく分けると一般に四つの部類に分けられてます。即ち佛部の仏・菩薩の仏、明王の部の仏・天部の仏がそれです。

(1) 仏部の尊像（如来形ともいう）

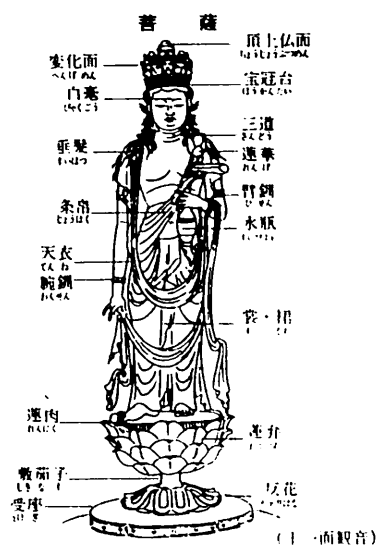
釈迦如来、阿弥陀如来、大日如来などでこうした仏部の尊像は図に示すような特長があり、立像と座像などがあります。



(2) 菩薩部の尊像

誠観音、千手観音、十一、馬頭観音、文殊菩薩、彌勒菩薩、地藏菩薩、その他多くの菩薩があります。

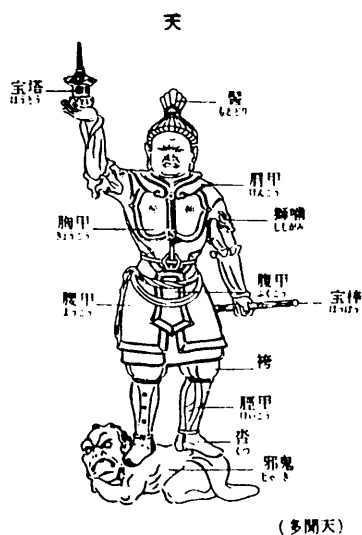
菩薩像は如来の変身した姿であり、救済を専らにする仏をさしており、図に示されるように慈悲のうちの悲を現わしております。



(3) 天部の尊像

梵天、帝釈天、毘沙門天（多聞天）、特国天、増長天、などがあります。

天部は、如来、菩薩、明王たちの邪魔をする仏の敵に対して、鎧、兜を身につけ、武器をもっていつでも闘える姿をしています。



(4) 明王部の尊像

明王と名のつくものは、すべて大日如来の化身だということになっております。

愛染明王、不動明王、その外、降三世明王、軍荼利明王、大威徳明王、金剛夜叉明王などがあり、これら諸像の特徴は如来や菩薩などが柔和な顔であるのに反して、あらゆる悪を紛砕するため、猛々しい忿怒の相をしているのが特徴である。



(5) その他

(1) お大師堂

真言宗の開祖、弘法大師（空海）が祀られている。

大師は俗姓を佐伯と呼び、十五歳の頃より儒学を修め、さらに十八歳の時「三教指帰」の原本を著し仏教に入る。

後に唐に渡り（804）、三年後に帰国。真言密教を極め、高野山、東寺を根本道場とし、各地を巡歴し、経世済民に尽され、現在もなお「お大師さん」として親しまれている。

(2) 天満宮（天神さん）

学問の神、悪を懲らす神として崇められている菅原道真公を祀る社である。

道真公は平安中期（899）の学者で右大臣に任じていたが、藤原時平の中傷により大宰府に左遷され、その地で没した。

道真の没後、京に雷雨などの災禍が続き、民衆はこれを、道真の怨霊のせいとして恐れ、その霊を京都の北野に祀り、天満自在天神と称し、また、火雷天神とも呼んだ。

邪悪を懲らす神として、さらに、文芸の神として現在も崇められている。

日本元号西暦対照表

(平凡社事典から)

平	安	時	代	平	安	時	代	◎大化以前は歴代天皇の 何年と云う		
								大	和	時
貞元 976- 978	天承 824- 834	大化 645- 650		天承 834- 848	白雉 650- 686			大和	大和	大和
天元 978- 983	承和 848- 851	朱雀 686- 701		嘉祥 851- 854	大宝 701- 704			大和	大和	大和
永観 983- 985	仁寿 854- 857	朱鳥(朱雀) 686- 701		嘉祥 854- 857	大和 704- 708			大和	大和	大和
寛和 985- 987	天安 857- 859	大和 708- 715		天安 857- 859	大和 715- 717			大和	大和	大和
永延 987- 989	貞観 859- 877	大和 717- 724		永延 987- 989	大和 724- 729			大和	大和	大和
永祚 989- 990	元慶 877- 885	大和 729- 749		永祚 989- 990	大和 749			大和	大和	大和
正暦 990- 995	仁和 885- 889	天平感宝 749		正暦 990- 995	天平勝宝 749- 757			大和	大和	大和
長徳 995- 999	寛平 889- 898	天平宝字 757- 765		長徳 995- 999	天平神護 765- 767			大和	大和	大和
長保 995-1004	昌泰 898- 901	天平神護 767- 770		長保 995-1004	天平神護 767- 770			大和	大和	大和
寛弘 1004-1012	延喜 901- 923	天平神護 770- 780		寛弘 1004-1012	天平神護 770- 780			大和	大和	大和
長和 1012-1017	延長 923- 931	天平神護 780- 782		長和 1012-1017	天平神護 780- 782			大和	大和	大和
寛仁 1017-1021	承平 931- 938	天平神護 782- 806		寛仁 1017-1021	天平神護 782- 806			大和	大和	大和
治安 1021-1024	天慶 938- 947	天平神護 806- 810		治安 1021-1024	天平神護 806- 810			大和	大和	大和
万寿 1024-1028	天暦 947- 957	天平神護 810- 824		万寿 1024-1028	天平神護 810- 824			大和	大和	大和
長元 1028-1037	天徳 957- 961			長元 1028-1037	天平神護 810- 824			大和	大和	大和
長暦 1037-1040	天徳 961- 964			長暦 1037-1040	天平神護 810- 824			大和	大和	大和
長久 1040-1044	天徳 964- 968			長久 1040-1044	天平神護 810- 824			大和	大和	大和
寛徳 1044-1046	天安 968- 970			寛徳 1044-1046	天平神護 810- 824			大和	大和	大和
承暦 1046-1053	天禄 970- 973			承暦 1046-1053	天平神護 810- 824			大和	大和	大和
喜長 1053-1058	天延 973- 976			喜長 1053-1058	天平神護 810- 824			大和	大和	大和
承平 1058-1065				承平 1058-1065	天平神護 810- 824			大和	大和	大和
治暦 1065-1069				治暦 1065-1069	天平神護 810- 824			大和	大和	大和

鎌倉時代	しよく承	げん元	1207-1211	平安時代	てん天	よう養	1144-1145	平安時代	えん延	きやう久	1069-1074
	けん建	りべ暦	1211-1213		きやう久	あん安	1145-1151		しやう承	ほう保	1074-1077
	けん建	ほう保	1213-1219		にん仁	へい平	1151-1154		しやう承	りべ暦	1077-1081
	じやう承	きやう久	1219-1222		きやう久	じっ寿	1154-1156		えい永	ほう保	1081-1084
	じやう貞	おう応	1222-1224		ほう保	げん元	1156-1159		おう応	とく徳	1084-1087
	げん元	にん仁	1224-1225		へい平	じ治	1159-1160		かん寛	じ治	1087-1094
	か嘉	ろく禄	1225-1227		えい永	りべ暦	1160-1161		か嘉	ほう保	1094-1096
	あん安	てい貞	1227-1229		おう応	ほう保	1161-1163		えい永	ちやう長	1096-1097
	かん寛	き喜	1229-1232		ちやう長	かん寛	1163-1165		しやう承	とく徳	1097-1099
	じやう貞	えい永	1232-1233		えい永	まん万	1165-1166		こう康	わ和	1099-1104
時	てん天	ふく福	1233-1234	時	にん仁	なん安	1166-1169	時	ちやう長	じ治	1104-1106
	ぶん文	りべ暦	1234-1235		か嘉	おう応	1169-1171		か嘉	しよく承	1106-1108
	か嘉	てい禎	1235-1238		しよく承	あん安	1171-1175		てん天	にん仁	1108-1110
	りべ暦	にん仁	1238-1239		あん安	げん元	1175-1177		てん天	えい永	1110-1113
	えん延	おう応	1239-1240		じ治	しよく承	1177-1181 (83)		えい永	きやう久	1113-1118
	にん仁	じ治	1240-1243		よう養	わ和	1181-1182		げん元	えい永	1118-1120
	かん寛	げん元	1243-1247		じゅ寿	えい永	1182-1185		ほう保	あん安	1120-1124
	ほう宝	じ治	1247-1249		げん(元)	りべ暦	1185-1185)		てん天	じ治	1124-1126
	けん建	ちやう長	1249-1256		ぶん文	じ治	1185-1190		たい大	じ治	1126-1131
	こう康	げん元	1256-1257		けん建	きやう久	1190-1199		てん天	しやう承	1131-1132
代	しやう正	か嘉	1257-1259	鎌倉時代	しやう正	じ治	1199-1201	代	ちやう長	しやう承	1132-1135
	しやう正	げん元	1250-1260		けん建	にん仁	1201-1204		ほう保	えん延	1135-1141
	ぶん文	おう応	1260-1261		げん元	きやう久	1204-1206		えい永	じ治	1141-1142
	こう弘	ちやう長	1261-1264		けん建	えい永	1206-1207		こう康	じ治	1142-1144

(北 朝)

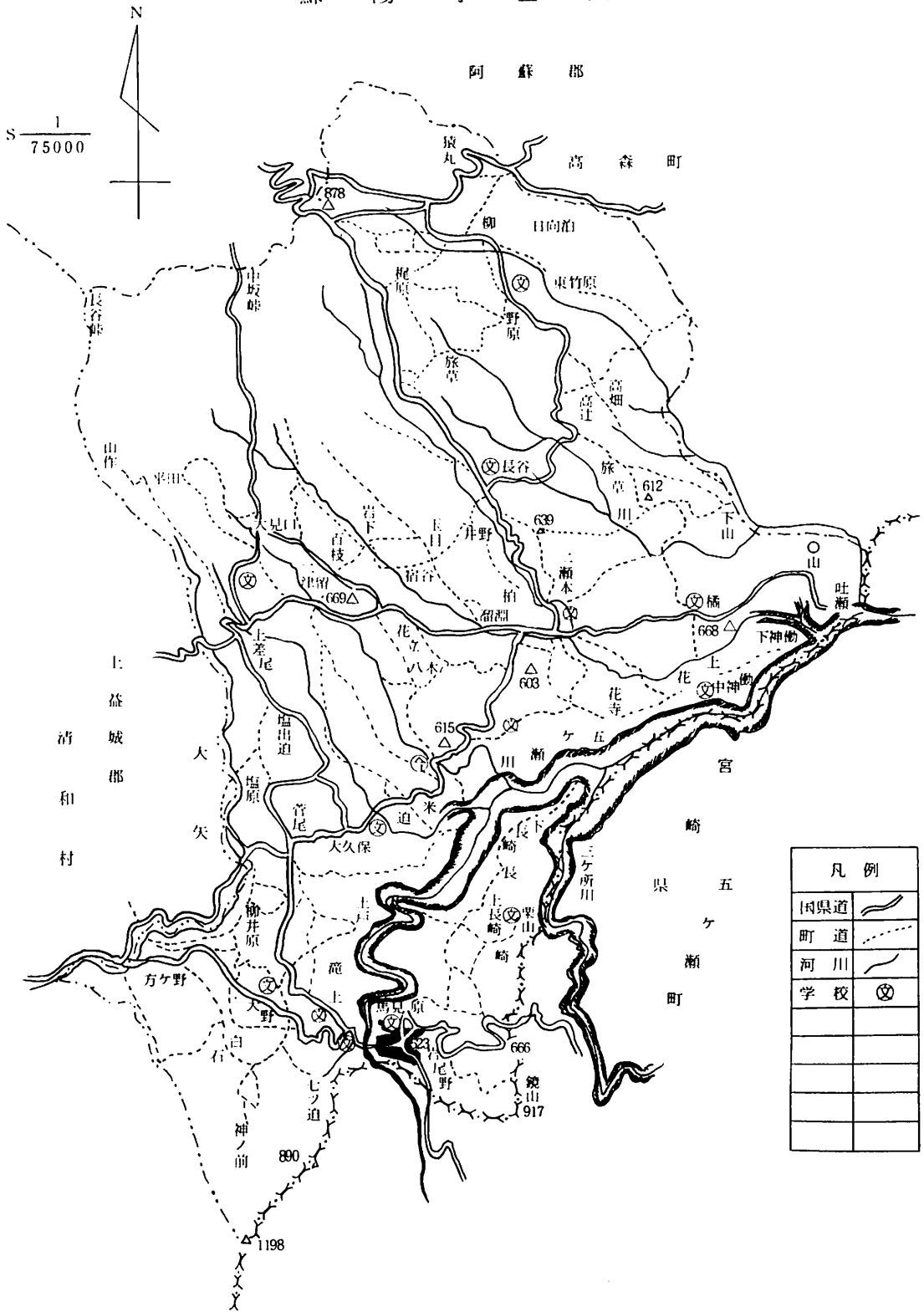
(南 朝)

南 北 朝 時 代	しょう 正	けい 慶	1332-1334	南 北 朝 時 代	けん 建	む 武	1334-1336 (38)	鎌 倉 時 代	ぶん 文	えい 永	1264-1275
	けん 建	む 武	1334-1338		えん 延	げん 元	1336-1340		けん 建	じ 治	1275-1278
	りやく 暦	おう 応	1338-1342		こう 興	こく 国	1340-1346		こう 弘	あん 安	1278-1288
	こう 康	えい 永	1342-1345		しょう 正	へい 平	1346-1370		しょう 正	おう 応	1288-1293
	しょう 貞	わ 和	1345-1350		けん 建	とく 徳	1370-1372		えい 永	にん 仁	1293-1299
	かん 観	おう 応	1350-1352		ぶん 文	ちゅう 中	1372-1375		しょう 正	あん 安	1299-1302
	ぶん 文	な 和	1352-1356		てん 天	じゅ 授	1375-1381		けん 乾	げん 元	1302-1303
	えん 延	ぶん 文	1356-1361		こう 弘	わ 和	1381-1384		か 嘉	げん 元	1303-1306
	こう 康	あん 安	1361-1362		げん 元	ちゅう 中	1384-1392		とく 徳	じ 治	1306-1308
	しょう 貞	じ 治	1362-1368		めい 明	とく 徳	1392-1394		えん 延	きょう 慶	1308-1311
	おう 応	あん 安	1368-1375						おう 応	ちやう 長	1311-1312
	えい 永	わ 和	1375-1379						しょう 正	わ 和	1312-1317
	こう 康	りやく 暦	1379-1381						ぶん 文	ほう 保	1317-1319
	えい 永	とく 徳	1381-1384						げん 元	おう 応	1319-1321
	し 至	とく 徳	1384-1387						げん 元	こう 享	1321-1324
	か 嘉	けい 慶	1387-1389						しょう 正	ちゅう 中	1324-1326
	こ 康	おう 応	1389-1390						か 嘉	りやく 暦	1326-1329
	めい 明	とく 徳	1390-1394						げん 元	とく 徳	1329-1331 (32)
			(1392合一)						げん 元	こう 弘	1331-1334

江戸時代	明 あん	和 1764-1772	(安 織田土・豊桃 臣)山時代	天 みん	しょう 正 1573-1592	室 町 時 代	応 しょう	永 1394-1428
	安 てん	永 1772-1781		文 けい	ろく 禄 1592-1596		正 えい	長 1428-1429
江戸時代	天 かん	明 1781-1789	江 戸 時 代	慶 けん	ちやう 長 1596-1615		永 か	享 1429-1441
	寛 きやう	政 1789-1801		元 かん	な 和 1615-1624		嘉 みん	吉 1441-1444
江戸時代	享 みん	和 1801-1804		寛 しょう	えい 永 1624-1644		文 ほう	安 1444-1449
	文 みん	化 1804-1818		正 けい	ほう 保 1644-1648		宝 きやう	徳 1449-1452
江戸時代	文 てん	政 1818-1830		慶 しょう	あん 安 1648-1652		享 こう	徳 1452-1455
	天 こう	保 1830-1844		承 めい	おう 応 1652-1655		康 ちやう	正 1455-1457
江戸時代	弘 か	化 1844-1848		明 まん	ねき 曆 1655-1658		長 かん	禄 1457-1460
	嘉 あん	永 1848-1854		万 かん	じ 治 1658-1661		寛 みん	正 1460-1466
江戸時代	安 まん	政 1854-1860		寛 かん	ぶん 文 1661-1673		文 おう	正 1466-1467
	万 みん	延 1860-1861		延 てん	ほう 宝 1673-1681		応 みん	仁 1467-1469
江戸時代	文 かん	久 1861-1864		天 じやう	な 和 1681-1694		文 ちやう	明 1469-1487
	元 けい	治 1864-1865		貞 けん	きやう 享 1684-1688		長 えん	享 1487-1489
江戸時代	慶 めい	応 1865-1868		元 ほう	ろく 禄 1688-1704		延 めい	徳 1489-1492
	明 たい	治 1868-1912		宝 しょう	えい 永 1704-1711		明 ぶん	応 1492-1501
江戸時代	大 しょう	正 1912-1926		正 きやう	とく 徳 1711-1716		文 えい	亀 1501-1504
	昭 へい	和 1926-1989		享 げん	ほう 保 1716-1736		永 たい	正 1504-1521
江戸時代	平 せい	成 1989		元 かん	ぶん 文 1736-1741		大 きやう	永 1521-1528
				寛 えん	ほう 保 1741-1744		享 てん	禄 1528-1532
江戸時代				延 かん	きやう 享 1744-1748		天 こう	文 1532-1555
	平成元年	1989		寛 ほう	えい 延 1748-1751		弘 えい	治 1555-1558
江戸時代				宝 れき	曆 1751-1764		永 げん	禄 1558-1570
							元 き	亀 1570-1573

蘇陽町全図

阿蘇郡



1
S 75000



凡 例	
国県道	
町 道	
河 川	
学 校	